

急性腎盂腎炎

英語名 : Acute pyelonephritis

A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

急性腎盂腎炎の症状は、悪寒（寒気、ぞくぞくする）と戦慄（ふるえ、歯がガチガチする）を伴う高熱、わき腹が痛む、腰が痛む、はきけ、嘔吐などがあり、全身症状が強く出ます。特に下記症状は早期より出現しますので、これらの症状が出ましたら、医師・薬剤師に連絡して、速やかに受診してください。

「寒気」、「ふるえ」、「発熱」、「わき腹や腰の痛み」など

検尿や血液検査をして診断し、早期に適切な抗生物質や抗菌薬で治療すれば入院の必要はなく、通常3～5日で熱が下がり症状も消失します。対処が遅れますと、入院治療が必要になります。

はじめに

感染症とは細菌が体の中で増えて人に害を与えることですが、細菌が増えることを抑制したり、細菌を殺したり、体の外に排除させる役割を担っているのが免疫系です。免疫系はリンパ球、顆粒球（好中球、好酸球、好塩基球）、単球など白血球と総称される細胞より成り立っています。これらの白血球が薬により働きが悪くなり、免疫力が低下し、細菌感染症が起きやすくなる場合があります。

免疫力を低下させる薬としては免疫抑制薬、抗がん剤、インフリキシマブ、エタネルセプトなどの抗 TNF α 生物学的製剤などが挙げられます。免疫抑制薬とは臓器移植に用いられるとともに、アレルギー、膠原病、関節リウマチなど免疫系のバランスが崩れたために起こる疾患の治療などにも用いられます。免疫抑制の字のごとく、白血球の働きを抑えて病気の原因を鎮めるために使用されます。抗がん剤は、強い増殖能力を有するがん細胞を殺すために用いられますが、増殖能力の大きな白血球も強く障害を受けやすく、免疫力低下の原因となります。抗 TNF α 生物学的製剤は白血球が細菌を殺す時に使う武器の一種の TNF α の働きを抑える薬なので、免疫力が低下します。

免疫力が低下することで、起こりやすくなる感染症のうち、敗血症などを起こし、致命的になりうる感染症として急性腎盂腎炎、肺炎などが挙げられます。

1. 急性腎盂腎炎とは？

急性腎盂腎炎とは、尿路におこる細菌感染症の1種です。尿路は図1に示す様に、腎臓から始まり、腎臓にて作られた尿を集めて尿管にそそぐ腎盂、尿管、膀胱を通して尿道でおわります。尿路感染症は通常尿道から細菌が侵入することにより発症します。侵入した菌がどこで増殖し、人に害を与えるかにより、尿道炎、膀胱炎、腎盂腎炎などに分類されます。これらの尿路感染症で一番症状が強く、時には敗血症の原因となるのが急性腎盂腎炎です。急性腎盂腎炎は通常膀胱で増えた細菌が尿管を通して腎盂まで達して発病します。尿路感染症は尿道が短い女性で高い頻度に発症します。

急性腎盂腎炎を予防するために、免疫力を低下させうる薬を使用

する際には色々な注意が必要です。まず尿道から膀胱への細菌の侵入を防ぐために、尿道周囲に近づく細菌の数を減らすことです。尿道に近づく細菌はほとんどが大腸菌など大便由来の菌ですので、最も大切なのは陰部の清潔を保つため入浴、シャワー浴を行うことで、排便後のシャワー浴などは最も理想的です。また、細菌が侵入しても、腎盂まで上がってこないように尿で洗い流すことも有力な手段です。水分を多めに摂り、尿を膀胱にあまり溜めないうちに排尿することです。過労は免疫力を低下させますので、規則正しい生活と十分な睡眠も大切な予防法です。体を冷やすことも免疫力を低下させますので、適切な衣類による保温や暖房が必要です。

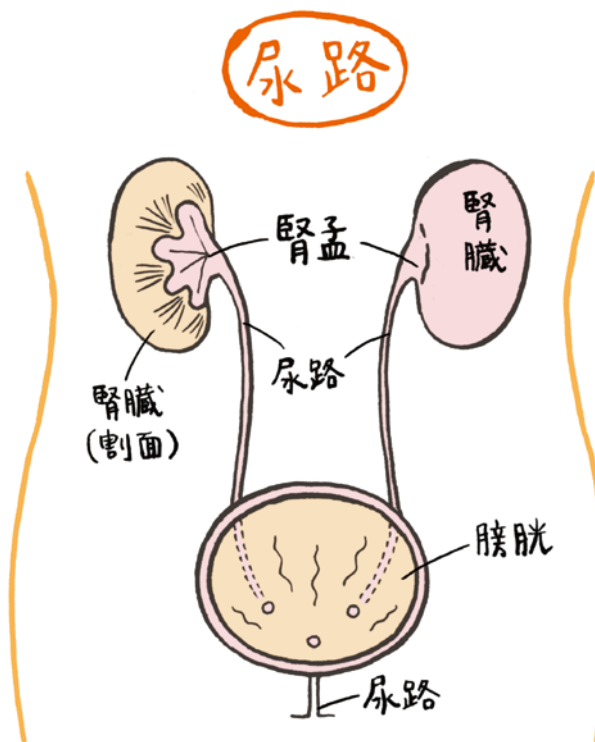


図 1) 尿路

2. 早期発見と早期対応のポイント

急性腎盂腎炎の症状は悪寒（寒気、ぞくぞくする）と戦慄（ふるえ、歯がガチガチする）を伴う高熱、わき腹が痛む、腰が痛む、はきけ、嘔吐などがあり、全身症状が強く出ます。特に寒気、ふるえ、発熱、わき腹や腰の痛みなどは早期より出現しますので、これらの

症状が出ましたら直ちに医師の診察を受けてください。検尿や血液検査をして診断し、早期に適切な抗生物質や抗菌薬で治療すれば入院の必要はなく、通常 3～5 日で熱が下がり症状も消失します。対処が遅れますと、入院治療が必要になります。



※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの「添付文書情報」から検索することが出来ます。(<http://www.info.pmda.go.jp/>)

また、薬の副作用により被害を受けた方への救済制度については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページの「健康被害救済制度」に掲載されています。(<http://www.pmda.go.jp/>)